



2024年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年2月13日

上場会社名 株式会社Waqoo 上場取引所 東
 コード番号 4937 URL <https://waqoo.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐俣 文平
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 近藤 成志 (TEL) 03-6805-4600
 四半期報告書提出予定日 2024年2月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年9月期第1四半期の連結業績(2023年10月1日~2023年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年9月期第1四半期	445	△9.0	△113	—	△109	—	△110	—
2023年9月期第1四半期	489	—	79	—	83	—	67	—

(注) 包括利益 2024年9月期第1四半期 △110百万円(—%) 2023年9月期第1四半期 67百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年9月期第1四半期	△36.67	—
2023年9月期第1四半期	22.61	22.38

(注) 2024年9月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年9月期第1四半期	1,538	664	43.2
2023年9月期	1,581	772	48.9

(参考) 自己資本 2024年9月期第1四半期 664百万円 2023年9月期 772百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2024年9月期	—	—	—	—	—
2024年9月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年9月期の連結業績予想(2023年10月1日~2024年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,052	18.9	66	△76.2	63	△78.0	60	114.7	20.23

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社(社名) 一、除外 一社(社名) 一

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

2024年9月期1Q	3,010,528株	2023年9月期	3,010,278株
2024年9月期1Q	一株	2023年9月期	一株
2024年9月期1Q	3,010,461株	2023年9月期1Q	3,006,178株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、リスクや不確定な要素等の要因が含まれており、実際の業績は記載の見通しとは異なる可能性がございます。なお、上記業績予想に関する事項は、3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	7
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症へと移行したことにより経済活動が正常化に向かい景気回復の兆しが見え始めているものの、世界情勢の緊迫化は依然として続いており、エネルギー問題や原材料等の高騰、更には円安の影響を受け、引き続き、不確実性の高い状況で推移しております。

このような状況の下、当社グループにおける主な取り組みとしては、2023年11月20日付にて、株式会社Waqoo（以下、当社という。）を株式交換完全親会社、セルプロジヤパン株式会社（以下、セルプロジヤパンという。）を株式交換完全子会社とする株式交換契約を両社間において締結いたしました。当該契約締結を通じ、当社とセルプロジヤパンは再生医療領域における血液由来加工の受託サービスの製販一体の連携強化を目指すと共に、化粧品等の商品企画領域においても、セルプロジヤパンが事業展開する化粧品・原料事業と緊密に連携を図り、同社が保有する技術や知見等を最大限に活用することで、効果・効能の高い商品開発の実現が可能になると考えております。今後、当社とセルプロジヤパンは、各社が抱える課題等を適宜把握した上で、その課題を柔軟かつ迅速に解決する体制を構築するなど、グループ一体となり中長期的な企業価値の向上をより一層図ってまいります。

なお、当社の主力事業であるD2C事業、並びに今後の当社グループを牽引するメディカルサポート事業における、各セグメントの概況については、以下のとおりです。

(D2C事業)

D2C事業については、育毛・発毛促進に特化した薬用炭酸ヘッドスパ育毛剤「sodatel（ソダテル）」の販売強化に向けて、商品特性に合った効率的かつ効果的な広告媒体の選定、継続率向上を目指した各種CRM施策の強化、並びに「sodatel（ソダテル）」と既存商品とのクロスセル販売等、各種施策を積極的に推進してまいりました。

また、既存の主力商品である「HADA NATURE（肌ナチュール）」については、新規顧客開拓の広告宣伝費を抑制する一方、ロイヤルカスタマーに対する各種施策が奏功し、継続率は想定通り高止まりし推移いたしました。この結果、同事業における当第1四半期連結累計期間の売上高は381,509千円（前年同期比20.12%減）、セグメント利益は53,952千円（前年同期比71.15%減）となりました。

(メディカルサポート事業)

メディカルサポート事業については、引き続き、血液由来加工の受託サービスの導入に向けて、全国のクリニック等に向けて積極的に営業提案を推進した結果、新規提携医院数の獲得及び加工受託件数は順調に増加して推移いたしました。今後、同事業の成長発展には提携医院数における受注率の向上が重要になることから、既に提携しているクリニックへの訪問頻度を増やし、医院長様並びに患者様からのご要望等を丁寧に拾い上げ、それをサービスの向上に繋がる施策や投資等を積極的に推進してまいりました。この結果、同事業における当第1四半期連結累計期間の売上高は64,368千円（前年同期比423.15%増）、セグメント損失は61,545千円（前年同期はセグメント利益3,312千円）となりました。

以上の結果、当社グループの当第1四半期連結累計期間の売上高は445,878千円（前年同期比8.98%減）、営業損失は113,299千円（前年同期は営業利益79,434千円）、経常損失は109,798千円（前年同期は経常利益83,906千円）、又は親会社株主に帰属する四半期純損失は110,388千円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益67,981千円）となりました。なお、当第1四半期連結累計期間においては、セルプロジヤパンの業績は加味されておられません。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は1,526,528千円となり、前連結会計年度末に比べ34,637千円の減少となりました。これは主に、売掛金の増加14,728千円、現金及び預金の減少33,752千円、商品の減少17,333千円によるものであります。

当第1四半期連結会計期間末における固定資産は12,105千円となり、前連結会計年度末に比べ8,161千円の減少となりました。これは主に、長期貸付金の減少260,447千円、貸倒引当金の減少253,520千円によるものであります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は604,301千円となり、前連結会計年度末に比べ100,958千円の増加となりました。これは主に、短期借入金の増加60,000千円、1年内返済予定の長期借入金の減少15,027千円、未払金の増加56,955千円によるものであります。

当第1四半期連結会計期間末における固定負債は270,214千円となり、前連結会計年度末に比べ34,986千円の減少となりました。これは、長期借入金の減少によるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は664,118千円となり、前連結会計年度末に比べ108,770千円の減少となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純損失110,388千円を計上した結果、利益剰余金が減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年9月期の業績予想につきましては、2023年11月15日付の「2023年9月期 決算短信」で公表いたしました業績予想から変更はありません。なお、当該業績予想につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,305,025	1,271,273
売掛金	118,977	133,705
商品	97,918	80,585
原材料及び貯蔵品	8,239	7,142
その他	31,003	33,820
流動資産合計	1,561,165	1,526,528
固定資産		
有形固定資産	272	571
無形固定資産	7,937	6,503
投資その他の資産		
長期貸付金	260,447	—
その他	5,130	5,030
貸倒引当金	△253,520	—
投資その他の資産合計	12,056	5,030
固定資産合計	20,266	12,105
資産合計	1,581,432	1,538,633
負債の部		
流動負債		
買掛金	28,459	23,562
短期借入金	170,000	230,000
1年内返済予定の長期借入金	160,451	145,424
未払金	75,649	132,604
未払法人税等	4,694	4,164
その他	64,089	68,545
流動負債合計	503,343	604,301
固定負債		
長期借入金	305,200	270,214
固定負債合計	305,200	270,214
負債合計	808,543	874,515

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	51,025	51,132
資本剰余金	1,087,153	1,087,261
利益剰余金	△365,291	△474,276
自己株式	△54	△54
株主資本合計	772,832	664,062
新株予約権	56	56
純資産合計	772,888	664,118
負債純資産合計	1,581,432	1,538,633

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年10月1日 至 2023年12月31日)
売上高	489,882	445,878
売上原価	131,154	122,735
売上総利益	358,727	323,143
販売費及び一般管理費	279,292	436,442
営業利益又は営業損失(△)	79,434	△113,299
営業外収益		
受取利息	393	232
貸倒引当金戻入額	—	3,977
償却債権取立益	5,100	350
雑収入	125	—
営業外収益合計	5,618	4,560
営業外費用		
支払利息	874	969
租税公課	271	63
雑損失	—	26
営業外費用合計	1,146	1,058
経常利益又は経常損失(△)	83,906	△109,798
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	83,906	△109,798
法人税、住民税及び事業税	15,925	590
法人税等合計	15,925	590
四半期純利益又は四半期純損失(△)	67,981	△110,388
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	67,981	△110,388

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年10月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	67,981	△110,388
四半期包括利益	67,981	△110,388
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	67,981	△110,388

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報
前第1四半期連結累計期間(自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)	合計
	D2C事業	メディカル サポート事業	計		
売上高					
通販	456,904	—	456,904	—	456,904
その他	20,672	12,304	32,977	—	32,977
顧客との契約から生じる収益	477,577	12,304	489,882	—	489,882
外部顧客への売上高	477,577	12,304	489,882	—	489,882
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	477,577	12,304	489,882	—	489,882
セグメント利益	187,001	3,312	190,313	△110,879	79,434

(注) 1. セグメント利益の調整額△110,879千円は、主に報告セグメントに配分していない一般管理費等の全社費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当第1四半期連結累計期間(自 2023年10月1日 至 2023年12月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)	合計
	D2C事業	メディカル サポート事業	計		
売上高					
通販	360,364	—	360,364	—	360,364
その他	21,145	64,368	85,513	—	85,513
顧客との契約から生じる収益	381,509	64,368	445,878	—	445,878
外部顧客への売上高	381,509	64,368	445,878	—	445,878
セグメント間の内部売上高又は振替高	75	—	75	△75	—
計	381,585	64,368	445,953	△75	445,878
セグメント利益又はセグメント損失(△)	53,952	△61,545	△7,593	△105,706	△113,299

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△105,706千円は、主に報告セグメントに配分していない一般管理費等の全社費用であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

(重要な後発事象)

(企業結合関係)

当社は、2024年1月1日を効力発生日として、当社を株式交換完全親会社とし、セルプロジャパン株式会社(以下「セルプロジャパン」といいます。)を株式交換完全子会社とする株式交換(以下「本株式交換」といいます。)を行いました。

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 セルプロジャパン株式会社

事業の内容 再生医療関連事業、分析・加工受託事業及び化粧品・原料事業

(2) 企業結合を行った主な理由

再生医療領域における「血液由来加工」の受託販売サービスを展開する当社にとっては、セルプロジャパ

ンが保有する製造技術・ノウハウ等を取り込み、製造技術と販売サービスを一通貫にする、いわば、”製販一致”の実現はかねてより悲願でもありました。またその一方、当社が展開するD2C事業においても好影響が見込まれると考えております。

具体的には、当社での化粧品等の商品企画において、セルプロジャパンが事業展開する「化粧品・原料事業」と密に連携を図るとともに当社が保有する技術や知見等を最大限に活用することで、効果・効能の高い商品開発が可能となります。また、商品完成に要する時間や過程においても格段の効率化が図れ、開発した商品は当社のD2C事業を通じ、得意とするマーケティング力を駆使しタイムリーに一般消費者に販売ができる等、様々なシナジー効果が両社に現れると考えられます。セルプロジャパンとしても、「血液由来加工」におけるスピーディーな課題解決の実現のみならず、上場企業のグループ傘下に加わることにより得られる信頼の下、再生医療領域の事業を更に深耕・発展させ、かつ「化粧品・原料事業」を通じ消費者・患者・医療機関に向けた網羅的なサービスの構築や付加価値のある化粧品・医療品等を提供できるようにしていくためには、当社とセルプロジャパンの両社がこれまで以上に連携を深め、一体経営を構築することが不可欠であるとの認識に至り、2023年8月からセルプロジャパンを当社の完全子会社とするための検討を両社間にて進めてまいりました。

完全子会社化の方法としては、当社のキャッシュポジション等に鑑み完全子会社化に際して資金流出が生じないこと、本株式交換の対価として当社の普通株式がセルプロジャパンの株主に交付されることにより、Waqoo株式の保有を通じて、本株式交換後に当社とセルプロジャパンの利害を共通化した上で実行することが想定されている各種施策により生じることが期待される効果や、そのような効果の発現によるセルプロジャパンの事業発展・収益拡大、その結果としてのWaqoo株式の株価上昇等を享受する機会を両社の株主に対して提供できると考えたことから、当社及びセルプロジャパンは株式交換のスキームを選択することが望ましいと判断いたしました。これらの点を踏まえて、総合的に検討した結果、当社及びセルプロジャパンは、本株式交換によりセルプロジャパンを当社の完全子会社とすることが、当社及びセルプロジャパンそれぞれの企業価値の向上に資するものであり、双方の株主にとっても有益なものであるとの認識で一致したことから、両社において、本株式交換に係る割当比率を含む諸条件についての検討及び協議を経て合意に至り、本株式交換による完全子会社化の実施を決定いたしました。

(3) 企業結合日

2024年1月1日

(4) 企業結合の法的形式

株式交換

(5) 結合後企業の名称

変更はありません。

(6) 取得した議決権比率

100%

2. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内容

取得の対価	当社普通株式	1,375百万円
-------	--------	----------

取得原価	1,375百万円
------	----------

3. 株式の種類別の交換比率及びその算定方法並びに交付した株式数

①株式の種類別の交換比率

セルプロジャパン株式1株に対して、当社株式54.4株を割当交付いたしました。

②株式交換比率の算定方法

当社は、本株式交換比率の決定に当たって公正性及び妥当性を確保するため、当社及びセルプロジャパンならびにSBCメディカルグループから独立した第三者算定機関としてマクサス・コーポレートアドバイザー株式会社を選定いたしました。

当社においては、第三者算定機関であるマクサス・コーポレートアドバイザーから2023年11月17日付で取得した株式交換比率算定書、当社がセルプロジャパンに対して実施したデュー・ディリジェンスの結果等を踏まえて、慎重に協議・検討した結果、本株式交換比率は妥当であり、当社の株主の皆様の利益に資する

との結論に至ったため、本株式交換比率により本株式交換を行うことが妥当であると判断いたしました。

③交付株式数

598,400株

4. 主要な取得関連費用の内容及び金額
アドバイザー費用等 60百万円(概算額)
5. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間
現時点では確定していません。
6. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受ける負債の額並びにその内訳
現時点では確定していません。